子供の改良と進歩のために

柳平: いま、日本では石井先生が所長となられて、幼児モチベーション･センターという組織をつくっておられます。そこでは、漢字教育専門のインストラクターの養成を目的とし、今年の 3 月に第一期生を送り出しました。いま、ここにいらっしゃるような熱心なお母様方もそこで一定期間の講習を受けることによって、漢字の教育者になっていただくことができるわけです。そこで、アメリカでも、脳障害児だけでなく、普通の子供に、言葉や文字を教えていくため何か組織的な動きがありますか。

ドーマン: 私が、世界で見たこのような教育に関する施設は、まず東京で石井先生たちの主宰していらっしゃるものです。

その次が、私の主催するフィラデルフィアの人間能力開発協会だと思います。フィラデルフィアの施設は、まだ石井先生の施設ほど進歩開発されておりません。

私は、子供たちの改良･進歩のためには、どのような施設でも、支持いたします。私たちの世代は、世界に存在するいろいろな問題を、まだ解決し尽してはいません。問題が、解決されなければならないとすれば、我々の子供たちを、我々よりもっと良いものにしなければなりません。それは可能だと思います。

石井先生と共同研究

柳平: 石井先生とドーマン先生が、共同研究をなさるということをお聞きいたしました。私たちは、そのことにたいへん期待を寄せております。それについて、現在どのようなお考えをお持ちでしょうか。また、どのようなことにご苦心をなさっていらっしゃいますか。

ドーマン: 私は、石井光生と協力して企画を立てるということを、非常に喜ばしく思っております。石井先生のなさっていることと、フィラデルフィアで私のしていることとは、同じことだと思います。それは、子供たちに一つのチャンスを与えることです。

私と石井先生が、共同で開発する資料を、より良く使うことによって、子供たちが彼らの可能性を、より発展させるチャンスを与えることです。私は、それを大へん期待しております。